

やはり春一番の沢はこの山城

虎毛山塊 役内川三滝沢～湯ノ又沢右俣下降

手嶋

【日時】 2008年5月17日(土)～18日(日)

【メンバー】 L手嶋、古野、棚橋、佐貫、小池

山の雪も溶け、沢の季節が到来した。山菜採りを兼ねた沢登りはやはりこの山城だ。虎毛山塊にすれば、山菜は間違いない。ただし今年は春がやけに早い。昨年と比べて10日以上は早いのではないかと個人的には思っている。そんな中、新人の小池さんにも山菜の楽しさをたっぷりと味わって頂こうという試みが成功するだろうか。

5月17日

始まりはいつもの「あ・ら・伊達な駅」。このダジャレにもなっていない名前の道の駅に何度泊まっただろうか。これまではここで夜中に一関から来る古野さんと落ち合い、2台を連ねてのドライブであった。しかしすでに古野さんは東京へ帰郷。東京から1台での遠出である。

湯ノ又温泉までの林道途中で、タラノメやハリギリを採取。小池さんへの指導も怠らない。ツブレ沢出合へと続く山道入り口に駐車、ここから沢に下りツブレ沢本流沿いの踏み跡を行く。途中早速アイコやウドが採れる。相変わらず佐貫の目が冴える。

堰堤の先で本流に下り、しばらく本流を溯行。ちょっと登りにくい滝、そしてもう1つ滝を越えると、左手から三滝沢が入る。すでにここまででコシアブラを始め主だった山菜は量も含めほとんど採った。雪消えの泥壁は狙い目。大抵は食べ頃のウドがしっかり採れる。

三滝沢は特に難しい滝もなくナメの美しい沢。ほとんどナメで構成されているのではないかと思うくらい、ナメが続く。一方両側はそう平らではないので、意外とテン場探しが難しい。まだ13時前だったと思う。佐貫が左手のブナの台地にいい場所を見つけた。結局太陽がまだ真上にいるこの時間にテン場を決めた。

そうと決まればもう心は宴会モード。住居と台所の用意をすれば、早速乾杯が始まり、テンプラに始まって数々の山菜料理が食膳を賑わした。酔うほどに体が揺れ、「山はいいなあ〜！」を私は連発、春の宵はふけていくのであった。



5月18日

昨日のような溪相がずっと続く。ただし沢が細くなるにしたがい傾斜は急になり、ナメが立ったような滝もちょこちょこ現れる。右手の泥壁を棚橋、佐貫が登り、お助けをたらししてくれる。これを使って振り子トラバースで滝の上に抜けるように小池さんに指導したが、最後滝上に降りてザイルをはずしたところでツルッと滑って、一瞬ヒヤッとする一幕もあった。

上流になるにしたがい当然雪が増えてくる。東北の雪渓は越後や飯豊のそれと違って、緊張感はない。ただしやはり踏み抜きたくはないので、経験と勘で大体この辺り、というところを狙って歩く。初めての小池さんも、先輩達のルートを見て体で覚えてもらうしかない。

やがて詰めは灌木帯となる。まあ我々にとっては泥壁とも言えずヤブとも言えない、ある意味非常に楽な詰めであったが、慣れない小池さんはズルズル。佐貫が足の置き方、体重の移し方を教えながら横を登るが、なかなか難しいようだ。

稜線はこの辺りの常であるように、素晴らしいブナ林。登山道を棚橋を見つけ、これをたどって湯ノ又沢の下降地点へと向かう。道脇にはコシアブラがいくらかでも生えている。帰ってから1食分のテンプラ用にと、背丈より小さい木でちょうど食べ頃のものだけをポキポキと採りながら歩くと、結構袋一杯になってしまった。

さあこのあたりから下降かというところ、何と道標が湯ノ又沢の右俣には登山道があることを示している。これは事前の情報を持たなかった。これを下ってしまおうか、という話もしたが、まあせっかくだから下降の練習も含めて適当なところまで下降しましょうということで、ヤブに突入し沢型に出た。

上部はほとんど雪渓。ところどころ急なので、そんなところは横の笹にぶら下がりながら下降する。ところどころ滝を巻いたりするうちに、やはり登山道と出会ってしまった。最初はナメの美しさに敢えて道を避けもしたが、すぐにまた出会うと、もういいか、となってしまう。かくして最後は登山道に逃げこれを下降した。

しばらく下ると林道に到着し、ここから20分ほどで車へと帰着し、今山行を閉じた。まあ山菜のフルコースで、小池さんにも御満足頂けたのではないのでしょうか。

【グレード】つけ難いが、総合1級上といったところか

【行程】5/17 駐車スペース(9:55)～本流2段10m滝(11:25/40)～テン場(13:00)

5/18 テン場(6:10)～稜線(9:40)～下降点(10:30)～林道(12:40/13:00)～駐車スペース(13:25)

【地図】秋ノ宮

